

法蓮寺山門

法蓮寺の木造の門は、白川村に現存する最古の建造物と考えられている。もともとは、白川南部の中野集落にあった照蓮寺の僧侶の住居（庫裡）の前に建っていた。照蓮寺は 1400 年代後半に設立された浄土真宗の聖地で、13 世紀に庄川流域に浄土真宗を広めたとされる嘉念坊善俊の子孫が住職を務めていたことから、古くからこの地域で最も重要な寺院とされていた。照蓮寺の本堂は 1504 年に建てられたもので、庫裡の門も同時期のものと考えられている。

1960 年に完成した御母衣ダムによって御母衣湖ができ、中野をはじめとする上流の集落が水没したため、照蓮寺とその歴史的建造物は中野から移された。本堂は高山市に、山門は鳩谷集落の法蓮寺に移築されたが、鳩谷は嘉念坊善俊が住み、修行した場所であり、彼の墓もあるからである。